

- 1914年 三重県鈴鹿市に二男三女の長男として生まれる。父浅野弥吉、母つう。家は江戸時代からの旧家で、刻み煙草の仲買を商い、洋酒販売も行っていた。
- 1917年 弟嘉平生まれる。
- 1932年 中学卒業後職業軍人となり応召で満州にわたる。
- 1933年 母つう没。満州から帰国。この頃詩人の野田理一と親しくなる。
- 1938年 2度目の応召でフィリピンに向かう。
- 1939年 中国から帰国。野田理一に勧められ、美術創作家協会に初出品。
- 1944年 3度目の召集でフィリピンにわたる。終戦時には大尉となる。
- 1945年 復員。清水桂子と結婚。
- 1950年 鈴鹿信用組合理事になる。美術文化協会会員になる。
- 1952年 長女泰子誕生。
- 1953年 鈴鹿信用金庫代表理事となる。
- 1955年 父、弥吉没。
- 1956年 次女美子誕生。美術文化協会常任委員になる。
- 1957年 弟嘉平没。この年から「引っかき」をはじめ。
- 1959年 第19回美術文化展(東京都美術館)に出品。鈴鹿信用金庫代表理事を辞任。
- 1961年 中部美術協議会主催の自選展(愛知県美術館)出品。第21回美術文化展(愛知県美術館)。23回展まで毎年出品。中部美術作家県代1回選抜展(愛知県美術館)出品。アメリカ美術協会(AFA)の国際ドローイング展へ出品依頼。第7回中部美術文化展(愛知県美術館)出品。舞台をデザイン化した名古屋画廊のシンボルマークを作成。
- 1962年 第13回秀作美術展(朝日新聞主催、日本橋三越)出品。
- 1963年 美術文化協会を退会。
- 1964年 第4回選抜展(愛知県立美術館)出品。
- 1966年 浅野弥衛、勝本富士雄、伊藤利彦、小林研三、稲葉桂5人展(桜画廊)。
- 1967年 浅野弥衛展(壱番館画廊)。名古屋タイムズ主催秀作展に出品。
- 1968年 THE EXHIBITION OF JAPANESE ARTISTS DRAWING (LOSANGELES) 出品。
- 1969年 中部画壇60人展出品。
- 1970年 伊藤利彦、小林研三、佐藤宏らと5人展(桜画廊)。
- 1971年 浅野弥衛、田中栄作二人展(桜画廊)。
- 1972年 浅野弥衛、庄司達二人展(桜画廊)。12月〜1月にかけパリ、ジュネーブ、ローマ旅行。浅野弥衛展(ハルル画廊)1973、75、77年とハルル画廊にて個展。
- 1973年 浅野弥衛、中島幹夫二人展(桜画廊)。
- 1974年 朝日新聞展'74(名古屋)に出品。以後78年まで毎年出品。
- 1976年 次女美子、伊藤利彦、小林研三らとパリへ旅行。
- 1977年 放火により焼失した鈴鹿市龍光寺の本堂祭壇の襖絵を描き始める。
- 1978年 FIAC'78(パリ)出品。
- 1979年 アートナウ'79展(兵庫県立近代美術館)出品。アメリカ劇作家エドワード・オルビー・鈴鹿に浅野を訪ねる。日中展出品。翌年も日中展出品。
- 1980年 浅野弥衛展(大阪フォルム画廊)。翌年も大阪フォルム画廊で個展。
- 1982年 浅野弥衛、小林研三、伊藤利彦三人展(ボックス・ギャラリー)三重の美術・現代展(三重県立美術館)に出品。現代美術の展望展(富山県立近代美術館)に出品。昭和59年度名古屋市芸術賞特賞受賞。
- 1985年 受賞記念浅野弥衛展(名古屋市博物館)。現代の白と黒(埼玉県立近代美術館)出品。イタリア各地を回る。
- 1986年 野田理一没。浅野弥衛展(Japanska Galleriet, Stockholm)翌年も開催。愛知県立芸術大学客員教授となる。
- 1987年 アート・カイト展(三重県立美術館)出品。現代美術の動勢—絵画PART2(富山県立近代美術館)出品。愛知県立芸術大学教員展に出品。
- 1988年 白と黒—浅野弥衛の世界展(鈴鹿市文化会館)出品。
- 1989年 JAPANISCHE KUNST DER ACHTZIGER JAHRE (Frankfurt, KUNSTFEREIN)。線の動向展出品。
- 1990年 愛知県立芸術大学客員教授辞任。
- 1991年 日本の抽象、1991年交流会展(アートミュージアムギンザ)出品。名古屋芸術賞受賞作家展(名古屋市民ギャラリー)。線の表現展(埼玉県立近代美術館)出品。三重県民功労賞受賞。
- 1992年 中国旅行。東海の作家たち展(愛知県美術館ギャラリー)出品。大阪現代アートフェア—10回記念特別展'92(大阪府立現代美術センター)出品。
- 1993年 長年の盟友ともいえる桜画廊の藤田八栄子没。
- 1994年 藤田八栄子追悼展PART1(桜画廊)出品。昭和・戦後の洋画展(銚路市生涯学習センター・アートギャラリー)出品。心で見える美術展(名古屋美術館)出品。
- 1995年 線について—不在のモダニズム、不可視のリアリズム—展(板橋区立美術館)出品。
- 1996年 浅野弥衛展(三重県立美術館)。2月22日没。

四日市市立博物館『キャンパスに刻まれた魂〜浅野弥衛の世界〜』による

## 2014年展覧会スケジュール

変更となる場合もございます。

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
大展示室	第14回 私の愛する一点展 9/6〜10/26		堀内康司展 11/1〜1/18		収蔵品整理のため休館		梅野記念絵画館の美展 2/14〜3/29		林 俊衛展 4/11〜6/28			
ふれあい館	浅野弥衛展 9/6〜10/26		信州ゆかりの作家たち 11/1〜1/18			収蔵品展 予定 2/14〜3/12		みずかみ美術館	青木繁テッサン展 4/11〜6/28			未 定

## 2014年イベントスケジュール

8/23 (土)	スケッチ大会	9:00〜
9/7(日)	私の愛する一点展ギャラリートーク	13:30〜
10/11(土)〜12(日)	火のアートフェスティバル	
11月15日(土)	堀内康司展ギャラリートーク	13:30〜
1月18日(日)	親睦会・新年のイベント	

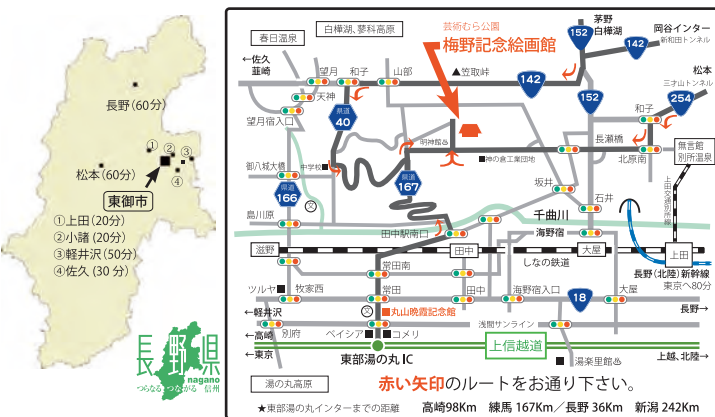
\*変更となる場合もございます。詳細はお問い合わせください

## 施設情報、開館案内

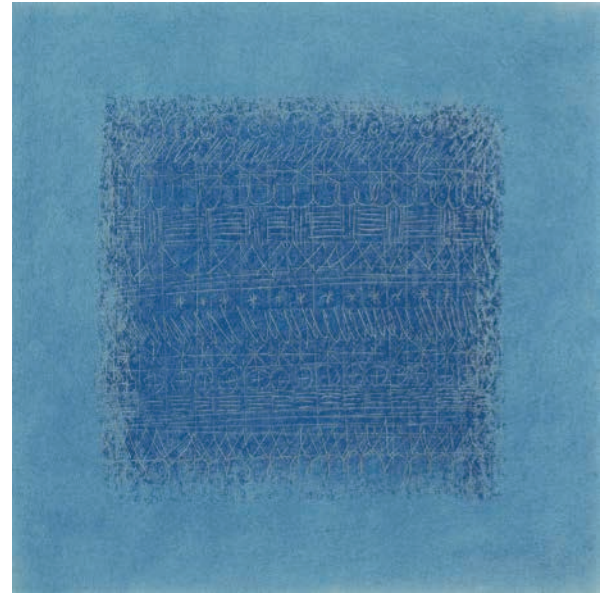
とうみし  
東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>  
〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1  
TEL0268-61-6161、FAX0268-61-6162、umenokinen@ueda.ne.jp  
開館時間 午前9時〜午後5時 (4時30分迄にご入館ください)  
入館料 800円(高校生以上) 15名以上団体700円  
身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。  
休館日 9月8、16、22、24、29日 10月6、14、20日

## アクセス

- ◆お車 練馬ICから2.5時間
- ◆鉄道 東京から最速2時間  
しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分
- ◆関東、北陸方面から  
上信越道東部湯の丸インターから15分
- ◆関東、北陸方面から  
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。
- ◆中部、関西方面から  
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
- ◆中部、関西方面から  
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信！ Tune Now! エフエムとうみ 78.5MHz リクエスト、メッセージは m@fimtomi78.jp



# 生誕 100周年 浅野弥衛展

2014年 9月6日(土)〜10月26日(日)

梅野記念絵画館 同時開催 私の愛する一点展 9/7(日) 13:30 浅野弥衛展ギャラリートーク

■〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1 ■TEL0268-61-6161

## ひびきあう線と線

東御市梅野記念絵画館  
館長 佐藤 修

浅野弥衛は画家になるにあたって先輩画家に師事するのではなく、7歳年上の詩人に先導役を求めたといいます。また、制作物は具象には手を染めずに初めから抽象であったとも。独学は独創に通じる道なののでしょうか、画家は“引っかけ”と称される自分だけの技法を編み出しました。それによって表現された線と色の画面は見る者の心に静かな心地よい緊張感を呼び起こします。うごめく線は弦となり、ひそやかな旋律を奏で、一編の抒情詩のように響きあいます。

名古屋画廊の中山真一さんは、この作家のオリジナリティをわずか数行に見事にまとめました。中山さんの著書『愛知洋画壇物語』の中の一節です。

〔日本の、自然からの、抽象絵画〕

「引っかけ」は浅野芸術において小さからぬ要因ではあるものの、あくまでも技法であるということができよう。浅野が目指すは「自然の摂理の美しさ、厳しさ、烈しさを抽象」することであり、「日本人でなければできない、日本の文化風土から生まれた抽象を確立したい」と述べている。また、それはけっして作為的になされるようなことではない。四季の移ろいに深く想いをいたす精神生活あってこそ、職人的とも言える自己の気質や生活感覚を大切にまもってこそ、いわば画家の本能としてそう自覚していた。そして、よきアルチザン（職人）であることの延長がアーティストと心得ていた。

これ以上の解説はありません。なるほどと得心させられる名解説です。

今回の浅野弥衛展は巡回展です。名古屋、東京、新潟、そして長野へとバトンが受け継がれてきました。画布から伝わってくるエレガントな詩情、今もなお鮮烈な光を放つ浅野弥衛の芸術世界をご高覧ください。



三重県鈴鹿市神戸町の家  
(伊勢へつながる参宮街道に  
面した江戸時代からの旧家)  
アトリエ内の浅野弥衛



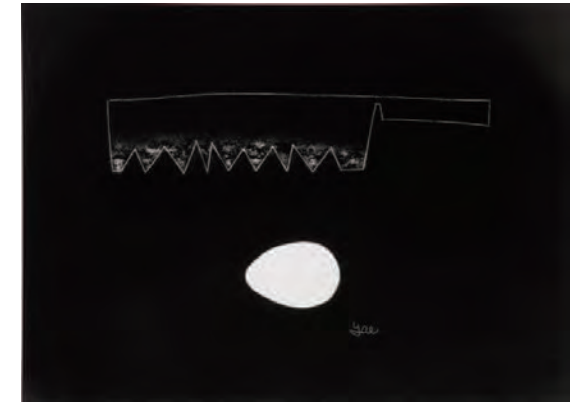
作品



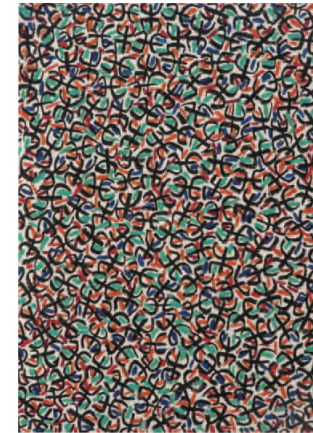
無題



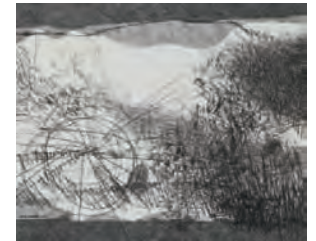
作品



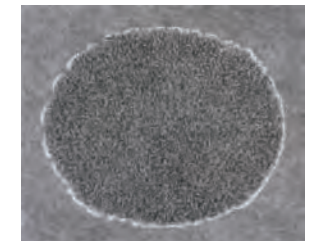
作品



作品



作品



作品



作品



がまの穂